

みんなで創るしあわせ実感都市 鴻上 の実現を目指して

田園風景と 都市機能の調和

鴻上市は、秋田県中央部の沿岸に位置し、秋田市や男鹿市などと隣接し、日本海に面した砂丘群の松林と出羽丘陵の緑の山並み、八郎湖に向かって広がる田園風景に囲まれました。豊かな自然環境の中にあります。平成17年3月の誕生か



第100回全国高校野球選手権記念大会パブリックビューイング(市役所市民ホール)

ら本年度15年目を迎えました。県内一、面積の小さい市ではありませんが、JRの駅が六つあるほか、高速道のICも至近距離にあるなど、交通体系は充実しています。加えて県庁所在地の秋田市に隣接していることから、ベッドタウンという特性も併せ持ちます。

平成30年は、夏の全国高校野球選手権大会(甲子園)で、県立金足農業高校が準優勝し、「カナノウ旋風」が巻き起こりましたが、エースの吉田輝星投手(現・北海道日本ハムファイターズ)をはじめ、レギュラーメンバーに3人が本市出身者として名を連ねたこともあり、脚光を浴びました。

これまでの取り組みから

本市では、子どもたちの健やかな成長を願い、保育園・こども園

の計画的な整備、小・中学校の大規模改修や普通教室へのエアコン設置を進めています。さらに、「特定・一般不妊治療費助成」「不育症治療費助成」「高校生への通学費助成」など、県内で先駆的に実施した施策を通じて、安心して子育てができる環境づくりに努めています。

また、都市計画法に基づく線引きを維持したまま、市街化調整区域の土地利用に柔軟に対応できる施策を県内で初めて導入したことにより、本市の一部地域では、人口が増加し続けています。これは、人口減少が進む秋田県において非常にまれなケースであり、市街化調整区域内の土地利用にとって非常に有効な方策であると同時に、人口減少対策としてもマスコミに取り上げられるなど、注目の



ブランド化を目指す「北限のふぐ」

土地利用規制の緩和策となっています。
新たなブランドの誕生に向けて

近年、本市の特産品としてPRに力を入れているのが「北限のふぐ」です。本市の天王沖には日本最北のトラフグの産卵場所があるといわれており、地元の漁港では毎年多くの水揚げがあります。身が引き締まり、歯応えがあり、味も良いのですが、地元でもあまり知られていないため、そのほとんどは首都圏や関西などの県外で出



八郎湖に向かって広がる田園風景

回っています。この現状を打開すべく飲食店や加工業者の皆さんが「天王ふぐ販売促進協議会」を設立し、フグの刺し身や鍋の具材をセットにした商品の販売を目指すなど、「北限のふぐ」をブランド化し、地域経済の活性化につなげようと奮闘しています。

自治基本条例に基づく まちづくり「主役は市民」

本市では、市民をはじめ議会と行政が、互いの知識や資源を出し合いながら、市政運営へ積極的に関わることで生まれるやりがいや充実感、そしてその役割と責任を適切に分ち合うことで互いに得られる充足感こそが、幸せの実感へとつながるとの考えから、「潟上市自治基本条例」に基づく「参画」と「協働」のまちづくりを進めて

います。

この自治基本条例は、市民によるまちづくり条例を標榜し、策定を進めました。まず、条文を検討したのは市民の代表からなる「策定委員会」で、ここでは、「市民・市議会・行政はどうあるべきか」を、半年以上をかけて熟議し、条例の骨子を作りました。その後、総勢118人からなる「市民100人委員会」を立ち上げ、骨子に基づいて具体的な条文の検討を行いました。この「市民100人委員会」の特徴は、委員のほぼ半数を女性が占めていたことです。本市は平成18年、秋田県内の自治体で初めて「男女共同参画都市」を宣言しましたが、これはその具現化ともいえるものでした。

地域課題解決のための施策を進める際には、地域住民の意識が高いほどその効果が高まることから、自治基本条例に基づき行政側の積極的な情報提供と各種事業の企画・立案・実施・評価の過程に、市民から参画していただけるよう常に心掛けています。地域課題を解決し、住みよい地域社会を形成していくためには、市民・議会・行政の3者が相互補完的に協働して

いくことがとても重要であると考えており、これが私の目指す「チームかたがみ」による市政運営です。

個人や地域の心の豊かさ、内面的な満足度といった生活の質の向上こそが、市民が求める幸福の姿であると強く認識し、市民との参画と協働によるまちづくりを成熟した形へと進めてまいりたいと考えています。

プロフィール

- ◆ 面積 97・72km²
- ◆ 人口 3万2656人
- ◆ 世帯数 1万3858世帯

〔将来都市像〕みんなで創るしあわせ実感都市 潟上々文化の風薫る 笑顔あふれるまち

〔まちの特徴〕県都に接した都市的な面と、日本海と八郎湖、出羽丘陵に囲まれた豊かな自然が調和したまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、天王町、昭和町、飯田川町が合併



潟上市長
藤原一成



〔特産品〕ふぐ、大豆、枝豆、梨、ぶどう、つくだ煮、花き、日本酒

〔観光〕道の駅てんのう天王グリーンランド、道の駅しょうわブルーメッセあきた、出戸浜海水浴場

〔イベント〕東湖八坂神社祭統行人事（国指定重要無形民俗文化財）、天王グリーンランドまつり、八郎まつり、飯田川鷺舞まつり



東湖八坂神社祭統行人事（国指定重要無形民俗文化財）

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「暮らしを愉しむ市民が活躍する 水の郷」潮来市

水辺に囲まれた
自然豊かなまち

潮来市は茨城県東南部に位置し、東部は北浦に面し、北部は霞ヶ浦と北利根川、南部は外浪逆浦というように、水辺に囲まれた自然豊かなまちです。

昭和28年の町村合併促進法に基



源頼朝によって創建されたと伝えられる長勝寺

本市は、古くから水運陸路の要衝として栄え、大化の改新の頃、国府（現在の石岡市）から鹿島神宮へ通じる駅路「板来の駅」を設けたのが、まちの始まりだと伝えられています。その昔は、地名を「伊多古」「伊多久」と称し、また

歴史薫る常陸風土記の郷
「娘船頭」「潮来花嫁」で
観光のまちへ

昭和28年の町村合併促進法に基

づき、昭和30年に潮来町、津知村、延方村、大生原村の1町3村が合併して潮来町が誕生しました。また、香澄村、八代村の両村が合併して牛堀村となり、さらに同年町制が施行されて牛堀町となりました。平成13年4月1日に、潮来町と牛堀町が合併して新潮来町となり、同日付けで市制を施行し、潮来市となりました。

常陸風土記には「板来」と書かれていたのを、元禄年間に徳川光圀公が「鹿島の潮宮」にあやかつて「潮来」と書き改め、今日に至つているといわれています。

近世になると、仙台藩や津軽藩などが物産を集めて江戸へ向かう千石船の積み荷を、潮来で高瀬舟に積み替えるようになり、前川は行き交う大小の船でにぎわい、荷の揚げ降ろしの船付き場（河岸）が続き、中継港として大いに繁栄しました。明治以降、鉄道の常磐線や総武線が開通してから水運は衰退しましたが、昭和30年に美空ひばりさんの「娘船頭さん」の口ケが行われたことがきっかけとなり、その名が全国的に知られるようになりました。

この地方は、周囲を水に囲まれた水郷地帯であったことから、付



120年前に建てられた文化財古民家を改築した「水郷旧家 磯山邸」

近一帯には水路（江間）が縦横に張り巡らされており、嫁入りする際に、花嫁や嫁入り道具を乗せて行くサツパ舟（ろ舟）が使われていました。このような光景は昭和30年代前半ごろまで日常的に見ることができました。

この嫁入り舟が全国的に知られるようになったのは、昭和31年10月に松竹映画「花嫁募集中」とタイアップし「ミス花嫁」を募集したことがきっかけとなり、また花村菊江さんが歌った「潮来花嫁さ



水郷潮来あやめまつりでは、「ろ舟」を使った嫁入りの様子(嫁入り舟)を再現



約500種・100万株のあやめ(花菖蒲)が自慢の「水郷潮来あやめ園」

良好な住宅地を配置し、これに伴う所要の商業・文教施設等の整備を図り、臨海工業地区の後背地区としての必要な機能

ん」の大ヒットにより、さらに知名度が上がりました。

加えて、鹿島開発も本市のまちづくりには大きな影響をもたらしました。鹿島開発の後背地として、「自然景観の保全につとめながら観光・レクリエーション施設を整備拡充することにより観光地としてさらに発展させるとともに環境

良好な住宅地を配置し、これに伴う所要の商業・文教施設等の整備を図り、臨海工業地区の後背地区としての必要な機能

を分担するものとする」とされ、土地区画整理事業による市街地整備、東関東自動車道潮来ICの設置などが進められ、現在に至っています。

「住みたいまち潮来」「魅力あるまちづくり」の実現へ

本市のまちづくりを進める上で、誰もが健康で安心できるまちを築くため、妊娠から出産、育児まで切れ目のない支援を行う「子育て応援サポート事業」を実施しており、今後は公立認定こども園の整備を進めると同時に、段階的に学校給食費の無料化を進めてまいります。さらに、移住定住を図るため「若年世帯定住促進助成事業」や「高速バス定期券助成制度」の利用を促進し、子育て世代が住みたいまちを目指します。

また、水郷潮来バスターミナルの混雑解消と、延伸される東関東自動車道との関係性を深めて地域の活性化を図るため、バスターミナルと「道の駅いたこ」との一体的な整備を進めます。

そして、本年5月にオープンしました「津軽河岸あと広場」や水郷旧家磯山邸、ろ舟、島崎城跡な

ど、さまざまな観光資源を生かしながら通年型観光に取り組みます。水辺と中心市街地の新たなにぎわいを創出するとともに、前川と延方干拓南幹線用水路を活用し「日本一の水路のまち」を目指し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、ポータ競技などのキャンプ誘致活動を推進してまいります。また、本市は茨城県のサイクリングロード

プロフィール

- ◆ 面積 71・40km²
- ◆ 人口 2万8070人
- ◆ 世帯数 1万1312世帯

〔将来都市像〕「暮らしを愉しみ市民が活躍する水の郷」潮来市
〔まちの特徴〕水郷(ろ舟、嫁入り舟)のまち

〔市町村合併〕平成13年4月1日、潮来町・牛堀町の合併

〔特産品〕米(潮来あやめちゃん、一



潮来市長 原 浩道



番星)、あやめ(花菖蒲)、すずめ焼き、てっぽう漬、あやめ笠
〔観光〕水郷潮来あやめ園、長勝寺、あじさいの杜(二本松寺)、島崎城跡
〔イベント〕水郷潮来あやめまつり(嫁入り舟、人力車、ろ舟、十二橋めぐり)、延方相撲、潮来祇園祭礼、水郷潮来花火大会、月まつり、ハロウィンパーティー

「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の出発点となることから、国内・海外からのサイクリストを呼び込むなど、国際観光都市を目指します。今後とも、市民の皆さまの声に耳を傾け、対話を重ねながら、市民の皆さまと一緒に「住みたいまちづくりを進め、「住みたいまち潮来」の魅力あるまちづくり」の実現に向けて、最大限の努力を重ねてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

子どもから高齢者までが幸せに暮らし、 産業が栄える犬山へ

三つの特徴

わがまちを語るとき、私はいつも三つの特徴「豊富な地域資源」「交通アクセス」「元氣な市民」を挙げています。

犬山市は、愛知県の最北端に位置し、一級河川木曾川、東部丘陵地や里山など豊富な自然資源に恵まれています。そして国宝犬山城

からもアクセスしやすい立地となつています。

また、このまちは市民のコミュニケーション活動が活発で、地域の伝統行事や市民活動が、市全域で展開されています。市民一人一人の活躍の場があるともいえます。

今後、創意工夫により、さらなる活性化が見込める、潜在能力の高いまちです。

道の駅と新しいまちづくり

近い将来、リニアの開通、国道41号の6車線化により、さらなる発展のチャンスが生まれます。このチャンスを生かすためにも、先手を打つまちづくりが重要です。特に、市の中央に位置する「橋爪・五郎丸エリア」で新しいまちづくりを進め、その潜在力を引き出すことは、本市全体の活力創出につ

ながると考えます。

その第一歩であると同時に厳しい規制に突破口を開く手段として、今後4年程度で道の駅を整備する計画を進めています。

第一歩として、下水道などのインフラを整えた後には、中期的ビジョンとして道の駅周辺に民間の商業立地を促します。その後、名鉄小牧線五郎丸新駅の整備に着手し、その先の長期的ビジョンとして、さらなる商業立地と住宅開発につなげます。

なお、道の駅の整備手法については、民間事業者からの意見を広く聞き取りながら、「民間独立採算の地域振興施設」を目指します。

このように、これまで開発行為が進まなかった地域に可能性の扉を開き、持続可能なまちづくりに挑戦しています。

国語教育から未来を開く！
「国語教育日本一のみち」へ

AIなどの情報技術が進化する中、人間が果たす役割が大きく変化するといわれています。そうした時代に求められるチカラとして、「新しい価値を創造するチカラ」と、「人とうまくコミュニケーションを図るチカラ」が重要であり、その基盤となるのが感性を豊かにする人づくりです。

こうした時代背景を踏まえ、感性豊かな人づくりを進めるために、特に子どもたちの教育の中で



犬山を舞台に事業や活動をしたいと考えている人を集め、交流することを目的とした「フューチャーセッション」

をはじめ、市内全域に地域資源の魅力が満載です。本市へは、名古屋から30分、中部国際空港から55分の名古屋鉄道（名鉄）と、市内を横断する国道41号線により、電車と車のどちら



国語教育日本一を目指し、感性豊かな人づくりのための授業改善を推進



室町時代に建てられ、築城480年を超える「国宝犬山城」

は、感性の基盤となる国語教育を徹底的に充実させていくことが最も重要と考え、国語教育日本一の取り組みを進めています。

具体的には、「読む・書く・話す・聞く」という国語力の各観点について、年齢に応じた到達目標を作成します。保育や就学後の授業づくりの中で、その目標の達成に向けた効果的な指導法を確立します。また達成状況の検証を踏まえ、個々のフォローアップやさらなる授業改善につなげる仕組みを構築します。そして、教科間の連携と幼保小中の系統性を深めます。

他にも、子どもたちの読解力を客観的に判定する「読解力診断テ

スト」の導入や、図書館の環境改善を進めるなど、さまざまな観点から日本一の国語教育を目指します。犬山というまちには、歴史文化、自然、人的な資源に恵まれ、感性を育むという点で最高の舞台です。こうした地の利を生かす意味でも、日本一の国語教育を目指すことは、犬山だからできるオンラインワンの展開であり、子育てする場所として、有力な選択肢ともなります。

そして、これは単に国語教育の在り方を考えるという次元ではなく、人づくりを通じた、未来への挑戦です。

サービス革命で「便利で、簡単で、分かりやすく、丁寧な」行政サービスへ！

市役所での各種手続きは、面倒くさい、分かりにくい、不親切というイメージがあります。市役所の都合ではなく、お客さまの側に立つて、サービスの在り方を考えることが重要です。

こうした課題に対し、もっと便利で、簡単で、分かりやすく、丁寧なサービスとなるよう、サービス革命と称し、市を挙げて改善に

取り組んでいます。

その手段については、ワンストップ化、オンライン化、簡素化、キャッシュレス化、デリバリーサービスなど、あらゆる角度から研究しています。

サービス革命は、いつまでに完了するというものではなく、ずっと改善を積み重ねていく終わりなき課題です。できるところから速やかに実行し、その後も改善に取

り組み続けます。

その上で、一番忘れてはならないのが、仕組み以上に、職員一人一人がお客さまと丁寧に向き合い、親身になって対応する意識や姿勢です。市役所の組織風土にそうした意識や姿勢が根付くよう、職員一丸となって取り組んでまいります。

今後も創意工夫と挑戦により、持続可能なまちづくりを進めます。

プロフィール

- ◆ 面積 74・90 km²
- ◆ 人口 7万3932人
- ◆ 世帯数 3万1260世帯

〔将来都市像〕人が輝き 地域と活きる「わ」のまち 犬山

〔まちの特徴〕歴史文化と自然に恵まれ、交通アクセスが良く、市民が元気なまち

〔特産品〕桃、夢とろろ（自然薯）、げんこつ、犬山焼



犬山市長
山田拓郎



〔観光〕国宝犬山城と城下町、入鹿池（世界かんがい施設遺産）、日本モンキーセンター（世界一サルの種類が多いサルの動物園）、野外民族博物館リトルワールド、博物館明治村、青塚古墳（東海地区最大級の前方後円墳）、大縣神社、三光稲荷神社、ヒトツバタゴ自生地（天然記念物）

〔イベント〕犬山祭（ユネスコ無形文化遺産）、木曾川うかい

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「市民の笑顔が人を呼び込むまち」の
実現を目指して

魅力あふれる県北の雄

玉名市は、熊本県北西部に位置し、産業面ではイチゴ、トマト、みかんなどが全国有数の生産を誇り、有明海の恵みを受けた海苔の養殖なども盛んに行われています。市の北部、小岱山しょうたいさんの麓には1300余年の歴史と泉質の優秀さを誇る玉名温泉があり、南部の有明海を望むみかん園の丘には、夏目漱石の名作『草枕』の舞台としても知られる小天温泉あまながあり、

豊かな自然と歴史的資源に恵まれた地域です。

また、熊本市圏と福岡都市圏の中間に位置し、JR鹿兒島本線や九州新幹線新玉名駅のほか、九



全国有数の生産を誇る農産物

州縦貫自動車道、有明フェリーな

どが利用可能で、交通の利便性に優れた地域でもあります。新幹線で新玉名駅から博多までは40分、鹿兒島まで1時間、大阪までは3時間半で結ばれ、九州管内はもとより関西圏までが日帰りできるエリアであり、本市の存在は大きなものと確信しています。周辺地域との連携による、立地条件を生かした観光振興やまちづくりの総合的な展開が大いに期待されています。

笑顔をつくる10年ビジョン

本市は市町合併後14年を経過しましたが、地方に共通する少子高齢化や人口減少に伴う問題をはじめ、合併により多くの公共施設を抱え、老朽化した公共施設の更新や集約などの課題に直面しており、行政運営の大きな転換期を迎

えています。

この転換期に当たり、これから目指す将来像を市民の皆さまに分かりやすく示すために、平成30年末に「笑顔をつくる10年ビジョン」を策定しました。この10年ビジョンは、「こんな玉名市であってほしい」と願う、多くの市民の意見や希望を基に、10年後の本市の将来像をまとめたものであり、そこに掲げる最終目標である「市民の笑顔が人を呼び込むまち」の実現に向けて取り組んでいます。目標の達成の3原則を設けて施策を展開しており、その取り組みの一部を紹介します。

一つ目の原則「市民生活の安定」では、「健康と福祉」をテーマに掲げ、子どもからお年寄りまで、全ての市民が安心して暮らせるための環境整備を進めています。例え

ば、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、介護予防事業を通じた高齢者の生きがいづくりの推進や、移動手段を確保する乗り合いタクシーのエリア拡大などに取り組んでいます。子育て世代においても、安心して子どもを産み、育て、働く環境を整備するため、一般不妊治療費の助成や学童保育の拡充などに積極的に取り組んでいます。

二つ目の原則「まちづくりの充実」では、市民が郷土に誇りを持ち、未来に向けて夢と希望を持てる魅力あるまちづくりを進めています。特に、本市の基幹産業である農水産業の基盤強化を図り、また企業立地の促進と産業集約を図るため、民間活力を導入した産業用地の整備に取り組んでいます。

また、九州新幹線開業から8年が経過しましたが、新玉名駅前の広大な田園地帯の開発は民間2社の進出のみにとどまっています。現在は駅北側に「くまもと県北病院機構」が令和3年春の開院に向

けた新病院建設を開始しています
が、他に目立った進出はなく、駅
周辺の開発が進んでいません。こ
の現状を踏まえ、平成30年6月に
「新玉名駅周辺整備基本計画」を
策定し、整備区域約35・6haの具
体的な整備に向けて動き出したと
ころです。

三つ目の原則「行政運営の進化」
では、市役所内部の改革はもとよ
りSNSを活用した情報発信の強
化を図り、また行政サービスの限
界を超えて、企業、各種団体、高
校、大学などと連携した官民協働
によるまちづくりを推し進めてい
ます。

大河ドラマを契機とした レガシーの創出

現在放送中の大河ドラマ「いだ
てん」の主人公の一人である日本
マラソンの父・金栗四三かなくりしぞう氏は、本
市の名誉市民です。市内には金栗
氏が家族と暮らした家やお墓、遺
品を収蔵・展示する「歴史博物館
こころピア」、放送に合わせオー
プンした「いだてん大河ドラマ館」
があり、さらには関係2町との連
携により観光スポットが充実し、
多くの来訪者がにぎわいをもたら

しています。この「いだてん」効
果は、玉名地域はもとより周辺地
域へも波及効果が表れており、今
後、これをいかに持続させ、さら
に地域活性化につなげていくかが
重要であると考えています。現
在、金栗の名前を冠する「金栗杯
玉名ハーフマラソン大会」「金栗
四三のふるさと玉名横島いちごマ
ラソン大会」の2大会を開催し
ていますが、令和2年には県北初
のフルマラソンを開催すること
としています。今回の大河ドラマを
一過性のものにするのではなく、
将来につながる起爆剤として捉
え、多方面から継続的にレガシー
の創出に取り組み、魅力あるまち
づくりを生かしていきます。



金栗四三のふるさと玉名横島いちごマラソン大会

笑顔が人を呼び込む まちづくり

これから、少子高齢化や人口減
少社会の到来に伴う数々の課題を
乗り越えていく中で、本市の取り
組みの方向性を示す10年ビジョン
の推進に当たっては、行政だけ
なく、民間（企業）、議会、全ての
市民と将来像を共有し、「チーム
玉名」として取り組んでいかなけ

ればならないと考えています。市
民の笑顔をつくり、市民の笑顔
を守ることを第一に長期的視点で推
進し、そこから生まれる笑顔が魅
力となり、多くの人が集い、訪れ、
住みたくなるまちの実現につな
がるものと信じています。今後さら
に本市の個性を磨き、住みよさと
魅力を向上させ、「笑顔が人を呼
び込むまち」の実現を目指して全
力で取り組んでいきます。

プロフィール

- ◆ 面積 152・60 km²
- ◆ 人口 6万6184人
- ◆ 世帯数 2万7845世帯

〔将来都市像〕人と自然が輝きやさし
さと笑顔にあふれるまち 玉名

〔まちの特徴〕有明海、菊池川、小岱
山および金峰山系の山々がもたらす豊
かな自然と歴史的資源に恵まれたまち

〔市町村合併〕平成17年10月3日、玉
名市・岱明町・横島町・天水町の対等
合併



玉名市長
藏原隆浩



〔特産品〕イチゴ、トマト、みかん、
有明海苔、玉名ラーメン、高瀬鮎
〔観光〕温泉（玉名・小天）、高瀬裏川、
菊池川流域日本遺産、古墳、蓮華院誕
生寺・奥之院、草枕交流館、鍋松原海岸、
金栗四三関連施設
〔イベント〕高瀬裏川花しょうぶまつ
り、玉名納涼花火大会、蓮華院誕生寺
奥之院大祭、玉名大俵まつり、金栗杯
玉名ハーフマラソン大会、金栗四三の
ふるさと玉名横島いちごマラソン大会

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、
人口・世帯数は「住民基本台帳」による。